

岩崎 正洋 教授

法学部

「安倍1強」を考察、世界に発信

議会制民主主義の「大統領制化」を問う 政治の基本原理は人間関係



いわさき・まさひろ

東海大政治経済学部政治学科卒。同大学院政治学研究科博士課程修了。杏林大社会科学部助教授を経て平成18年本学法学部助教授、20年4月同教授。25年9月から1年間、英サセックス大客員研究員。日本政治学会理事、日本選挙学会事務局長。著書に「比較政治学入門」(勁草書房)、監訳に「民主政治はなぜ『大統領制化』するのか」(ミネルヴァ書房)。静岡県出身。51歳。

「政治って常に変化している。それは今に始まったことではない。だから面白いんですよ」
故に、3冊の本の執筆が同時並行で進む。
テーマは「カウンターデモクラシー」(選挙以外の方法による民意の反映)、「日本の連立政権」(政治の大統領制化)。
加えて緒に就いた研究が「ポスト・グローバリゼーション」。それぞれに、真摯な考察が展開される。

悲観と楽観

安保法制の国会審議が大詰めを迎えている頃、国会の外では大学生、有識者、文化人らによるデモが続いた。

何でもあり

違法献金、被災地でのおんぶ、不倫、「福島で良かった」発言、森友問題――。結果としての閣僚の相次ぐ辞任。
「安倍内閣は、何でもあり」。

政治家のキャラ

そして、1強の中で進むのが、「政治の大統領制化」という。

人間への興味

かつての自民党総裁は党内の顔色をうかがわざるを得なかった。ところが「自民党をぶっ壊す」と叫んだ小泉純一郎首相は、「抵抗勢力」を削ぎ落とすことで長期政権を築いた。中曽根康弘、宮沢喜一氏ら旧世代の政治家を引退させ、首相にして大統領の振る舞いができた。

かたや安倍首相。「抵抗勢力もなく、戦わずしてリーダーシップを発揮。マスコミをコントロールし、スーパーマリオの格好をしたり、GINZA SIXに行き、総裁を擁する派閥の交代が政権交代の実質的役割を担ってきたとされる。1993年以降、連立政権の常態化によって1党支配は崩れた。



客員研究員として過ごした英サセックス大キャンパスで

松本 恵 准教授

文理学部

スポーツ貧血改善のための栄養サポート

不定愁訴の先に見えてくるアスリートの慢性疾患 日々の食事で鉄を摂取することが大事



まつもと・めぐみ

平成10年藤女子大人間生活学部食物栄養学科卒。12年酪農学園大学院酪農学研究所フードシステム修士修了。16年北海道大学院農学研究科応用生命科学博士後期修了。農学博士。管理栄養士。22年4月、南オーストラリア大学の招待研究員として渡豪中に公認スポーツ栄養士の資格を取得し、23年から本学文理学部体育学科准教授。北海道出身。

子どもの頃から自宅にほど近い小樽・銭函の海岸でサーフィンに興じ、高校時代は競泳でインターハイの代表だったという松本恵准教授。だが「練習のし過ぎで」腰椎を疲労骨折してしまい、競技生活は断念を余儀なくされる。

副作用を伴う鉄剤投与

「選手時代、海外遠征の時に食べるものがなくて困ったりとか、私自身ご飯を食べても太りにくかったり、よくお腹も壊していた経験があるの。選手をサポートできる仕事ができればいいなと思って」大学では管理栄養士の資格を取得した。

2008年には日本スポーツ栄養学会が日本体育協会、日本栄養士会と連携し、国庫補助を得て養成・認定する公認スポーツ栄養士に。14年のソチ五輪ではJSC(日本スポーツ振興センター)のマルチサポート事業に運営スタッフとして加わり、大会期間中は現地でも栄養・衛生管理等の責任者を務めた。

「厚労省の摂取基準では、鉄は1日50mgが許容上限。治療の際は100〜200mg投与するので、過剰摂取による副作用が起こるわけです」やはり重要なのは日々の食事内容を改善し、しっかりと鉄分を摂取していくことで、赤身の肉、貝類、ホウレン草や小松菜などの青菜は鉄を効率よく取れる食材だという。

「普段の食事から鉄をしっかりと取る必要があるのですが、減量などで激しい運動に見合うだけの食事ができないと、貧血症状を持つことが多いですね。特に女性は、月経周期で生理によって出血があったりするので陥りやすい」病院で鉄剤を投与する

腸内環境整備のノウハウ

「腸内環境整備のノウハウ」スポーツ貧血の場合、血液生化学データの異常が軽度でも「体がだるい」「練習後に必ず頭痛がする」などの慢性的な体調不良が見られるのが特徴という。

「よい具合が悪いとなれば、皆さんちゃんと病院に行くんですけど、何となく調子が悪い」ぐらいなら、私



2014年冬季ソチ五輪の業務最終日に担当のレストラン前で

「厚労省の摂取基準では、鉄は1日50mgが許容上限。治療の際は100〜200mg投与するので、過剰摂取による副作用が起こるわけです」やはり重要なのは日々の食事内容を改善し、しっかりと鉄分を摂取していくことで、赤身の肉、貝類、ホウレン草や小松菜などの青菜は鉄を効率よく取れる食材だという。

「試合に向けてコンディションを整えていく中で、緊張して下痢をしてしまったら、女子は便秘になることが多い。それに、高いレベルでトレーニングしている選手はどうしても免疫力が落ちて風邪を引きやすくなりますね」

現在、公認スポーツ栄養士の資格を有するのは全国で約200人。東京五輪を3年後に控え、すでにスポーツ界から引く手あまたの状況という。松本准教授も多忙の日々が続きそうだ。